

農場センサを活用した最適な栽培手法の共有

農業の収益力・生産性の向上

(富士通・旭酒造の食・農クラウド)

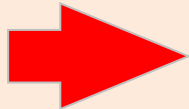
日本酒「獺祭」蔵元(旭酒造)が、生産者と協働し、栽培の難しい最高級酒米「山田錦」の最適な栽培手法・ノウハウをクラウドに蓄積、相互に情報(ビッグデータ)を共有

原料米の安定調達による生産拡大、
地域生産者の 所得向上の好循環を形成



「獺祭」の醸造に使われる「山田錦」の
栽培手法・ノウハウを共有し、農家の栽培を支援

ICTによる生産者の栽培支援と生産方法の共有等により効率化



5年後に調達量の総量を5倍にすることを目標

「獺祭」ブランドの向上、蔵元・農家の経営改善の好循環

(※ 現在、「獺祭」は20か国・地域に輸出中)